

検討会におけるこれまでの議論 (構成員からの主な発言)

令和4年11月15日

事務局

【ローミングの対象とする通信の範囲等】

- 緊急呼は最優先するべきだが、いずれ一般呼の議論も必要となるので、最初から緊急呼にスコープを狭めるのではなく、一般呼やデータ通信を含めた議論を進めるべき。(第1回、堀越構成員)
- 一般呼の取扱いについては、排除せずに検討いただくのが良いのではないか。(第1回、藤井構成員)
- 緊急呼以外では、やはりデータ通信をいろいろな場面で利用する部分が多いので、両輪で考えていただきたい。(第1回、西村構成員)
- 緊急呼に限らずに、幅広い議論をすべき。一般呼を含めるかどうかや障害のパターンによって対処する方式が変わってくるので、技術的に慎重な議論を求めたい。(第1回、内田構成員)
- ローミングの実現自体が目的のようになっていますが、あくまで手段であって最終目的は非常時の人々の生活を守るという点にある。携帯電話事業者も含めたこのような連携の仕組みというのは重要。(第2回、堀越構成員)

【段階的導入について】

- 対象とする通信の範囲や発動要件の在り方は、何段階かに分けて徐々にいいものを実現していくという可能性もあるということは、全体を通じた大きな考え方としてあり得るのではないか（第3回、相田座長）

【設備容量逼迫に関する議論の在り方】

- 事業者の説明では、帯域圧迫の懸念から、まずは緊急呼発信ローミングが現実的という意見が多かったと理解しますが、帯域圧迫については、もっと解像度が高い議論を進めるべき。（第1回、堀越構成員）

【MVNOを含めた議論】

- 今後、MVNOの利用者がおいてきぼりにならないようにMVNOを含めた議論は必要。（第1回、IIJ佐々木）

【携帯電話事業者間の緊密な情報連携等】

- 携帯電話の使用可否という通信エリア情報に関して、そのエリアにどのくらいの人がいるのか、つまり、通信が使えている人数、使えていない人数に関する情報が重要視されている。人流データの形で提供されているが、まだリアルタイムでしっかり活用できるには、もう一歩足りないのでぜひ期待したい。(第2回、臼田構成員)

【回線の切り替え時の端末操作について】

- 利用者側では複雑な端末操作をする必要があるとの説明があった。もちろんユーザーが使いやすい方法で運用いただくのが良いが、設定ボタンからいろいろ設定するという程度であれば、そこまで複雑ではないのかなという印象を持っている。(第1回、西村構成員)

【利用者の負担の在り方】

- ローミング以外の非常時の通信手段の議論と、ローミングの際のどのようなローミングを実現していくかという議論の両方を進めていくに当たって、利用者負担の在り方の観点は非常に重要。(第3回、IIJ佐々木)

【今後の継続課題等】

<DUALeSIMのプラン実現>

- DUALeSIMについては、事業者間同士の協業で負担を抑えたプランなども実現可能と思いますので、志は高く議論を進めてほしい。(第1回、堀越構成員)

<SIMなし端末発呼のいたずら防止策の検討>

- この間のKDDIの障害のような状況では、SIMなし端末からの発呼のような仕組みを使わざるを得ない。フィンランドの例だと、いたずら防止目的でSIMの番号を通知するなどの、個人特定ができるような情報も送るやり方は検討に値するのではないか。(第1回、藤井構成員)

【その他】

<緊急通報のためのアプリについて>

- 今後、一般の人々も緊急通報アプリを使うことが一般的になるだろうということも想定しながら、そういった観点でデータ通信も含めて優先的に位置づけていく必要があるのではないか。(第3回、飯塚構成員)
- 緊急通報の手段の多様化は、避けては通れないような状況になってきている。緊急通報を今後どう扱うのかは、いずれ議論を進めたほうが良い。最近では、若い方だと、もう電話番号自体を持たずにLINEでしか通話しないという方もいて、そのような方にも緊急通報をしっかり行える仕組みが必要(第3回、藤井構成員)

<ローミング以外の手段の検討>

- 災害が起こったときにいかに通信をできる限りつなぐのかということがゴールであって、その中の1つの手段として、事業者間ローミングがある。あわせて、ローミング以外の手段も並行して考える必要があり、次なる新技術についてもしっかり視野に入れて考えていく必要がある。(第2回、臼田構成員)